
ドラフト会議の日

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラフト会議の日

【Nコード】

N80080

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

ドラフト会議の日、野球をやっていた大学生の男にある電話がかかって来る。

野球選手にならないかという誘いの電話だったのだが…

「第一回選択希望選手 東京毎日サンダース 現代 太郎
投手 22歳 W大学」

今日は年に一度の新人選手選択会議、通称ドラフト会議の日だ。
また1位に現代太郎が指名された。これで6球団が競合。
こいつのまっすぐは確かに物凄かった。俺も2年の時に対戦したことがある。

といつても代打で一度だけだが…。
モノが違う… そりゃプロも注目するわ… そんな印象だった。
俺の記憶が確かならサンダースのスカウトもその日来ていたはずだ。

こんな球打てるかよ…。ところが…酒の席で必ず自慢するのだが、なんとその打席で

俺はあいつから目の覚めるような弾丸ライナーのツーベースを打ってしまったのだった。

あごを引き、上手く肘をたたみ150キロの剛速球を見事狙い通り…というわけにはいかず

実際はあまりの速さに一か八か、いち、にの、さんで振ったら
たまたま当たっただけだったのだが…

「あゝあ、俺にも電話かかってこねえかな 正座して待つか 来るわけねーけど（笑）」

本気で野球をやっていた者なら一度はしたことがあるであろう

妄想を俺もこの日していた。

俺の場合中学高校大学と続けて2年の時に遊びの誘惑に勝てず辞めてしまったのだが。

テレビでは淡々とドラフトが続いている。夢をかなえた選手が目を潤ませてインタビュー

を受けていた。「うれしいだろうなあ。そりゃ小さい頃からの夢がかなったんだもんな」

そのとき携帯電話が鳴った。非通知設定だ。

「はい、もしもし」

「もしもし私東京毎日サンダーズのスカウトをしております佐藤というものです」

私は我が耳を疑った。

「ええええええええ！？どうして俺なんかの所に！？」

「実はですね、今回のドラフト会議そのものの指名はないのですが、育成枠という形で

うちの育成担当のスカウトがぜひあなたを指名したいって言うてるんですよ」

「ええええええええええええ！？だって俺目立つ成績なんて残してないですよ！？」

それに2年の時やめてますし。」

考えられなかった。東京サンダーズが俺を指名するなんて。第一俺なんて見ていたのか！？

あ、あのときか！？現代太郎を見に来ていたとき。でもまさか俺なんて…

「あのとき現代太郎を見に来てたんじゃなかったんですか！？」

「…ええ。実はですね、見ていたんです私たち。」

えーと、現代君は指名が決まっていましたから確認のためでした。

実を言うと本当は他にキラリと光る原石はないかと探してい

たんです。

そしたら偶然あなたがスカウトの目に留まった、そういうことです。」

「え！？あのもしかしてツーベースですか！？」

「そうですね、はい。あの一振り。あのツーベースを打ったスイングに我々のスカウトが惚れ込んだようです。

さっそくなんですが契約交渉をしたいので通帳と印鑑を持って指定する場所

に来ていただくようお願いいたします」

呆然としていた。俺が野球選手に…。俺には物凄い才能があったのか！？

まぐれだとしてもあいつからヒット打つなんて才能がないと無理なのかもしれない…

も、もしかして才能が一気に開花してこのままとん拍子にめ、メジャーとか行っちゃったりして…

いや待て…落ち着け。それは時期尚早だ。まずは日本で実績を残してからだ。

はっ、そうだ。インタビューの練習しなくては。俺はコミュニケーション能力に

ちよつと問題ありだしな…

「そうですね、まあ1球目がね、チェンジアップだったんでね、まあ次はまっすぐだなと。そしたら上手い具合にバットに乗せることができたんでね、

うまく左手で押し込めたと思いますよ。今日はファンの皆さんありがとうございます！明日からもガンガン勝っていきますんで応援のほう

よろしくおねあいしゅす！ 最高でーす！」

や、やばい興奮してきた！と、とりあえず通帳と印鑑を用意だ！

「もしもし、私東京毎日サンダーズのスカウトしております
鈴木というものです」

「ええっ！？は、はい」

「実はですね、今回のドラフト会議そのものの指名はないの
ですが、育成枠という形で

うちの育成担当のスカウトがぜひあなたを指名したいって言
ってるんですよ」

「え…？だって俺サッカー部ですよ？」

「…でも、野球やられてたこと、あつたでしょ？」

「あ、ああ…中学の頃に少しかじった程度ですけど」

「ですよ？実はですね、見ていたんです私たち。中学のとき
のあなたの素晴らしい肩。

それですね、さっそくなんです、通帳と印鑑を持って…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8008o/>

ドラフト会議の日

2011年10月8日03時39分発行